

## 3年間を見通した檜山北高校のキャリア教育

北海道檜山北高等学校  
校長 佐 竹 卓

### 1 学校概要

#### (1) はじめに

本校は、昭和47年4月1日、北海道今金高等学校と北海道北檜山高等学校が発展的に統合し、北海道檜山北高等学校として開校した。開校当初は、全日制普通科5間口・家政科1間口、定時制普通科1間口・農業科1間口でスタートしたが、その後幾多の変遷を経て平成14年度入学生より総合学科に学科転換をした。

現在は、1年次3間口の小規模総合学科校であり、卒業後の進路状況は、進学7割・就職3割となっている。喫緊の課題として、地元中学生の減少に伴う本校入学生の減少、総合学科高校としての特色と魅力の深化、効果的なPR等が挙げられる。

#### (2) 学校教育目標（めざす生徒像）

- 知性と創造力を磨き、自ら実践する人間
- 人と自然を愛する、心豊かな人間
- 心身を鍛え、未来を拓く人間

#### (3) 系列と特徴等

| 系 列             | 特 徴 等                                                                                                                                        |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 人文<br>・<br>自然科学 | 我が国や他国の言語、歴史、社会等の学習を通し、地域社会との関わりなどについて理解を深めるとともに、身のまわりの自然現象について探求する学習を通し、物事を数学的・科学的に考察・処理する能力や態度を養い、常に変化する社会にあって、物事の本質を捉え、国際社会に貢献できる人材を育成する。 |
| 生活文化            | 生活、文化、福祉に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活の向上や社会福祉に貢献しようとする態度や能力を養うとともに、現代社会の課題を主体的に考え、人としての在り方や生き方を追究し、他者と融和できる豊かな教養と人間性を育成する。                          |
| 環境<br>・<br>生産技術 | 人間生活と環境との関わりを総合的に理解し、環境に配慮した地域づくりに貢献しようとする資質等を養うとともに、農業や食品製造に関する基本的な知識・技術を習得し、地域産業の発展・充実に主体的に取り組む人材を育成する。                                    |
| 情報<br>ビジネス      | 情報、商業についての実践的な学習を通し、コンピュータ利用とビジネスに関する基礎・基本から高度な知識・技術を習得するとともに、商業経済の発展と情報化、サービス化に柔軟に対応し、その能力を将来の就業に活用できる人材を育成する。                              |

### 2 本校のキャリア教育

#### (1) 全体像

総合学科としてスタートした平成14年度からは、総合学科推進部と進路指導部の二本立て

でキャリア教育にあたってきたが、平成21年度にキャリアガイダンス部として分掌を統合し、四つの柱を設定し、3年間を見通した系統的なキャリア教育を進めている。

## ア 実施形態等

| 名 称   | 実施授業等       | 実施年次 | 単位数 |
|-------|-------------|------|-----|
| キャリアⅠ | 「産業社会と人間」   | 1年次  | 2単位 |
| キャリアⅡ | 「総合的な学習の時間」 | 2年次  | 3単位 |
| キャリアⅢ | LHR         | 3年次  | 1単位 |

## イ 学習内容・単元等の設定

| 学習領域   | 学習内容等                                                 | 学習単元                                 | 配当年次              |
|--------|-------------------------------------------------------|--------------------------------------|-------------------|
| 自己理解   | 学習の主体となる自己を認識するとともに、コミュニケーション力を向上させ、他者理解の重要性について認識する。 | 自己分析・自分史<br>ソーシャル・スキル・トレーニング<br>地域理解 | 1年次<br>2年次<br>2年次 |
| 職業理解   | 産業・職業等についての理解を深め、自分の適性・興味・関心等を踏まえ、どのような職業生活を送るのか考える。  | 職場見学<br>インターンシップ<br>調査活動             | 1年次<br>2年次<br>3年次 |
| 社会認識   | 社会についての認識を深め、現代社会や国際社会の課題等について主体的に考える。                | 社会認識<br>ディベート                        | 1年次<br>2年次<br>3年次 |
| 履修計画作成 | 自己の進路や将来の職業等に応じた主体的な科目選択を行う。                          | 上級学校見学<br>ライフプラン                     | 1年次<br>2年次        |

### (2) 「産業社会と人間」における取り組み

本校では、高校卒業時に現代社会や国際社会の課題等について積極的に考え、自己の在り方や生き方等について主体的に考え、行動できる生徒の育成を目指している。

そのため、1年次に行うキャリアⅠ（「産業社会と人間」）においては、産業社会等についての認識を深めることと同時に、自己理解と他者理解に努め、対人関係スキルやコミュニケーションスキルを向上させることに主眼を置いて取り組んでいる。

年を追うごとに、対人関係づくりにおいて課題を抱えてる生徒が増加していることから北海道教育大学函館校の協力のもと、SSTを導入している。

また、各単元において、事前・事後のレポートの提出に力を入れて取り組んでおり、1年間で内容やボリュームを上げていき、「調べる」、「書く」、「話す・聴く」力を磨きながら、進路意識とキャリア観をともに鍛え、2年次へとつなげている。



【ソーシャル・スキル・トレーニング】



【究極の自己紹介】

### (3) 地域性を素材とした取組

#### ア 系列横断的な取り組み

2年次のキャリアⅡ（「総合的な学習の時間」）の授業の「地域理解」において、地域の自然・歴史・文化・産業等についての理解を深め、地域の特性や将来について考えることを目的に、それぞれのプロフェッショナルな人材に講師をつとめていただいております。講師の説明と体験的な学びを通して、地域の抱えるさまざまな課題についての認識を深めています。

#### イ 各系列の特色を生かした取組

##### (7) 環境・生産技術系列（「北海道の基幹産業「農業」に関する実践的学習」）

本校が位置するせたな町は、北海道の檜山北部に位置し、日本一の清流と言われる後志利別川が肥沃な大地の真ん中を悠々と流れながら日本海に注ぐ田園地帯にあり、主な産業は農業・漁業である。

本校が総合学科に学科転換する以前は、普通科の他に農業科と家政科が設置されていたため、その時代からの施設財産として、農場や農業関連施設があり、それらを生かす形で系列に位置付けている。

この系列で学んでいる生徒たちは、様々な野菜・草花等の栽培、トマトジュース・ヨーグルトなどの生産等を通して、地域の自然や環境・エネルギーについて科学的に考察しながら、地域の基幹産業が担う役割について学習している。



【ジャガイモの収穫作業】

##### (4) 生活文化系列（「郷土料理から考える北海道の食文化」）

地元の料理人の方を招いた郷土料理にかかわる様々な調理実習を毎年行っている。毎年12月には、北海道道南地方の正月料理「鯨汁」の調理実習を通して、北海道の「食」文化について考え、「食」を通して北海道の歴史や伝統についての学びを深めている。

### (4) 成果と課題

#### ア 成果

- (7) 自己の将来の在り方について、目的意識を持って考え、行動する生徒が増加している。
- (4) キャリアの授業を通して、「調べる」、「書く」、「話す・聴く」力が向上している。
- (ウ) 地域の歴史・文化・自然環境・産業等についての体験的な学習により、地域理解を深め、学ぶ目的と意欲を向上させている。

#### イ 課題

- (7) 教職員によるキャリア発達という視点(個としての自立を促し、発達段階に応じた教育活動の実施)の共有化及び組織的な協働体制を確立する。
- (4) 教科・科目、特別活動等とキャリアの授業との関連づけ(キャリア教育の視点に基づく教育課程の検討)を整理する。
- (ウ) 本校のキャリア教育の内容や進め方などを保護者・地域社会へ十分に説明する。